

文章構成の在り方を実感できる「読むこと」の学習指導の工夫

五泉市立五泉小学校 長谷川 水緒

1 はじめに

23年度、自校で行った学習指導改善調査の結果を分析したところ、「段落構成」「理由明確」「体験・予想」の項目の正答率が低かった。

これまで、書くことの学習の中で、文章構成の枠を示して文章を書かせることに取り組んできた。だが、枠を用いて書く練習を繰り返しても、枠に従って書くことはできるが、三部構成にする必要性や理由を多面的に考える良さを実感することができなかつたのではないか。その結果、右記のように、本論に書くべき理由を序論に書いたり、思い付くままに理由を書き加えたりする姿につながったと考える。

また、書くことだけでなく、読むことにおいて、筆者の意図をとらえて文章構成や述べ方に着目できる学習を行うことの必要性を感じた。

そこで、読むことにおいて、文章構成の在り方を実感できる学習指導の工夫を探りたいと考え、実践することとした。

23年度学習指導改善調査5年生の問題点

<段落構成> (自校)

序論・本論・結論の三部構成になっていない、本論の段落分けができていない

<理由明確>

理由の内容が整理されていない、理由として何を書けばよいか分からない

<体験・予想>

理由を多面的に考えられない、体験や予想が立場と一致していない

2 実践の実際

(1) 説明のしかたを考えよう「天気を予想する」(光村図書 五年)

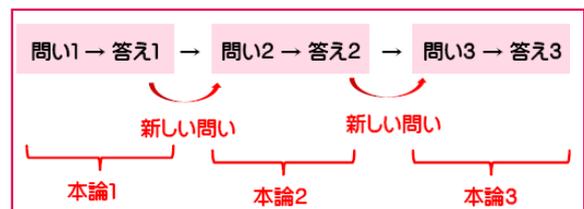
① 本論の3つのまとまりを考える

「天気を予想する」は、本論が3つに分かれる説明文である。問いと答えが、3回繰り返され、筆者の主張へと導いている文章である。

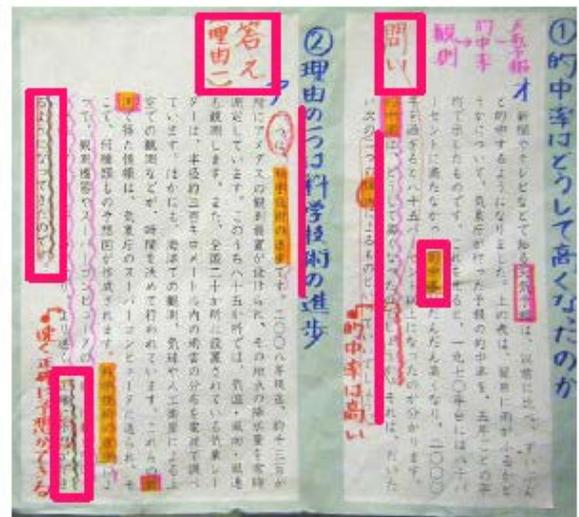
この構成を生かし、本論部分を形式段落ごとに切り離し、バラバラにした文章を与え、3つのまとまりに分けさせた。

児童は、各形式段落の最初と最後の一文のつながりかどうか、言葉同士が関連している段落はないかを視点にまとまりを考えていった。さらに、問いに答える形で展開されていること、各形式段落の中心文が本論1のまとまりの中でつながっていることに気付くことができた。また、形式段落に小見出しを付けることで、段落同士のつながりを確認することができた。

バラバラな形式段落を3つのまとまりにすることで、各本論のまとまりには、内容やそれを支える言葉、文のつながりがあることを実感することができた。



<↑本論の文章構成>



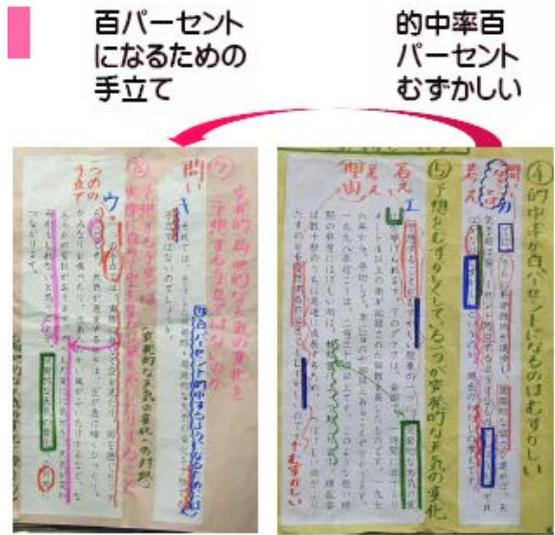
<↑本論1のまとまり>

② 本論の3つのまとまりの順番を考える

次に、3つに分けた本論の順番を考えさせた。児童は、意味段落のまとまりとしてのつながりを考えていった。

児童は、3つのまとまりについて、内容のつながりを検討していった。本論1は「科学技術による天気の予想と的中率の向上」、本論2は「予想しきれない天気の変化」、本論3は「人間の感覚や経験による天気の予想」について述べられているとした。各まとまりの内容をとらえた上で、本論1と本論2は対比してあること、そしてこれを受けて、そのための手立てが本論3で述べられているというつながりに気付くことができた。さらに、科学技術と人間の感覚や経験という2つの予想の仕方を対比しながらも、互いに補い合って予想することが大切だという筆者の考えに気付いていった。

本論を3つのまとまりに分ける、分けた3つの順番を考える学習をとおして、児童は、各本論は筆者の意図を受けて展開されることを実感することができた。



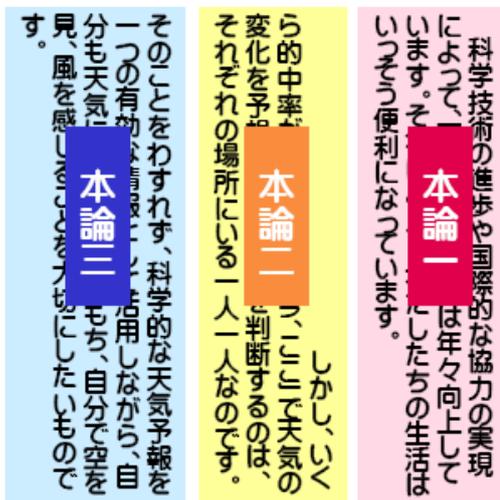
<↑本論2と本論3のつながり>

③ 結論の続きを考える

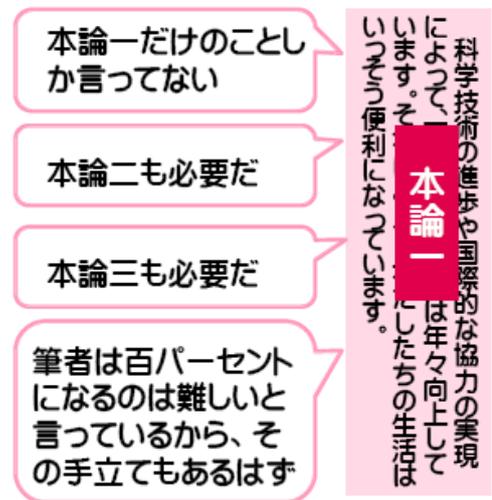
「天気を予想する」の結論は、左下の図に示したように、本論1、本論2、本論3を受け、筆者の主張を述べている。

そこで、児童には、右下に示したように、本論2、本論3の部分を隠し、本論1について述べた不十分な結論を提示した。すると、児童は、「本論1のことしか言っていない」、「本論2や本論3についても必要だ」、「筆者は百パーセントの中するのは難しいと言っているから、その手立ても書いていないといけない」ということに気付いた。

これまで自分の意見を書く際に、結論を「私は、～が良いと思いました」、「ぼくは、～を選びました」という一文のみでまとめていた児童が多かった。だが、結論の続きを考える学習をとおして、結論は、本論を受けた主張が述べられていること、本論は、筆者の主張へと導く論の展開がされなければいけないことを実感することができた。児童は、筆者の意図に沿って、結論の役割、結論と本論のつながり、本論同士のつながりを考えることができた。



<↑結論部分>



<↑本論1を受けた結論部分を提示>

(2) 自分の考えを明確にしながら読もう

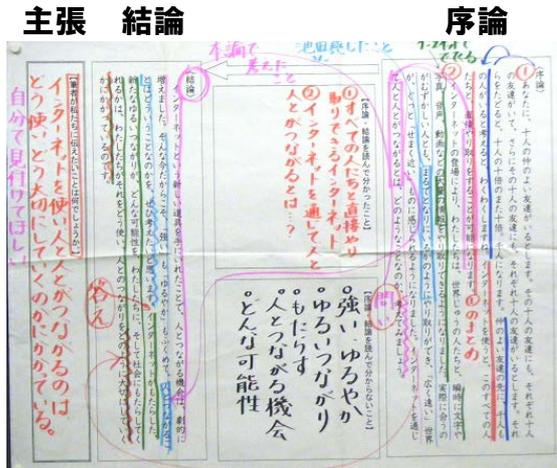
「ゆるやかにつながるインターネット」(光村図書 五年)

① 序論・結論から筆者の主張をつかむ

「ゆるやかにつながるインターネット」は、序論本論1・2・3、結論という全体構成である。

話題提示である序論、言葉の設定とインターネットの特色を述べた本論1、インターネットが人とのつながりにもたらすよさを述べた本論2、危うさとそれに対する手立てを述べた本論3、結論と続いている。本論は、「特色→よさ→あやうさ・手立て」と、とらえやすい。

そこで、まず、序論と結論だけを提示し、筆者の伝えたい主張をつかませた。



<↑序論・結論のワークシート>

<序論>

インターネットを通じて、人と人がつながるとは、どのようなことなのか、考えてみましょう。

<結論>

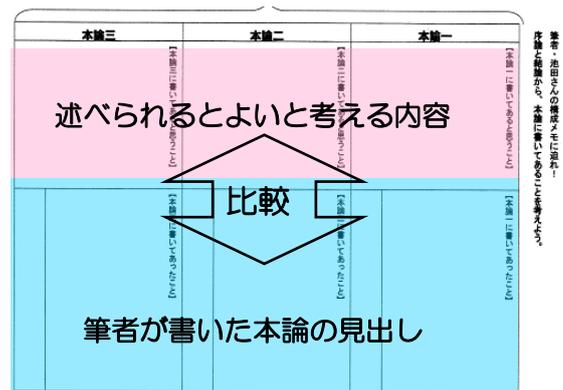
新たなゆるやかなつながりが、どんな可能性をもたらしてくれるかは、それをどう使い、人とのつながりをどのように大切にしていくなにかにかかっている。

児童は、序論と結論から、筆者の主張は、「インターネットをどう使い、どのように大切にしていくなかを私たち一人一人が考えなくてはいけない」ということであるととらえた。序論と結論のみの限られた情報の中で考えることで、児童は、筆者の主張を焦点化することができた。

② 序論・結論から必要な本論を考える

次に、児童は、「筆者の主張が伝わるようにするためには、どのような本論にすればよいのだろう」と、本論に必要な内容を考え、構成メモを作った。

序論や結論から、本論で述べられるとよい内容を推論していった。「『ゆるやかなつながり』という言葉が分からない。『ゆるやかなつながり』が何かを説明しているはずだ」、「インターネットを使うことで生まれるよいこと」、「インターネットを使った悪いこと」、「筆者の池田さんの体験」、「インターネットを使うことで何が起きるのかという具体例」などが挙げられた。



<本論を考えるワークシート>

その後、筆者が書いた本論を提示した。児童は、「『名づけましょう』とあるから設定だ」、「『容易に起こりうる』『安心感をもたらします』とあるから、やっぱりよさが書いてある」、「『あやうさ』とあるから、悪いことも書いてあるんだよ」と、自分たちの予想した内容と照らし合わせながら、叙述を根拠にして本論で述べられていることをとらえていった。筆者が書いた本論と、序論や結論から自分たちが導いた予想を比較することで、本論は、筆者の主張を支える内容であることを実感することができた。

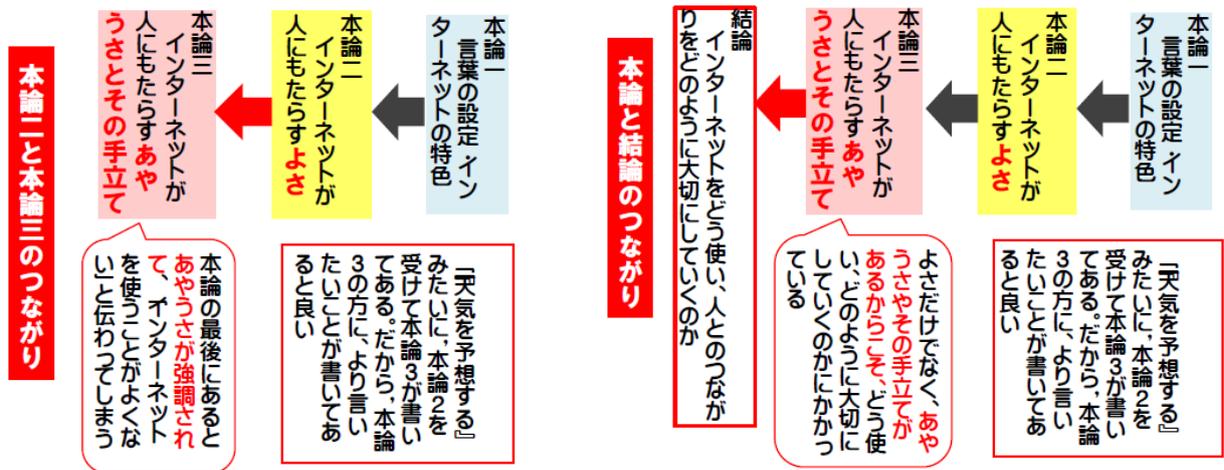
③ 本論の内容の順序を考える

児童から、「よさよりも、あやうさとその手立てを先に述べた方が良いのではないか」という意見が出た。理由を聞くと、「最後にあやうさがあると、あやうさが強調され、インターネットを使うことがよくないと伝わってしまうから」と答えた。これは、「天気を予想する」で学んだ、本論同士のつながりを考えている姿である。

そこで、学級全体にこの疑問を返し、本論2のインターネットが人にもたらすよさと本論3のあやうさとその手立ての順序をどうすればよいのかを考えさせた。

児童は、『『天気を予想する』みたいに、本論2を受けて本論3が書いてある。だから、本論3の方により言いたいことが書いてあるとよい』と考えていた。

初め、多くの児童が、本論2と本論3の本論同士のつながりを考えて検討していたが、次第に、本論同士だけではなく、結論とのつながりに着目し始めた。「結論にある筆者の主張が伝わるようにするには、よさだけでなく、あやうさもあることを知り、だからこそ自分の言動を常に問わなければならない」と述べている。筆者の主張と合わせると、『よさ→あやうさ・手立て』の順序の方が伝わりやすい」と、結論から本論のつながりを実感することができた。



<↑本論同士のつながり>

<↑結論と本論のつながり>

3 実践のその後

単元終了時に、違う単元で学習していた討論会で使う自分の意見文を見直させた。A1, A2が、見直させる前の文章であり、B1, B2が見直させた後の文章である。

<児童I>

A1 これまでの理由から、私は栽培施設の中で育ったしいたげが良いと思いました。

B1 安くて新せん。 しかも、育てた人と話せて安心という、 このような理由から、私は栽培施設の中で育ったしいたげが良いと思いました。
 (本論一、二) (より強く伝えたいこと)

<児童II>

A2 これらのことから、私は地元産のしいたげを選びました。

B2 これらのことから、水もきれい、空気もきれいなこの五泉市のしいたげを買うと、作った
 (本論一、二：根拠)

人も買った人も元気になり、安全なものを食べることができます、 だから、私は、地元産の
 (根拠を受けての伝えたいこと)

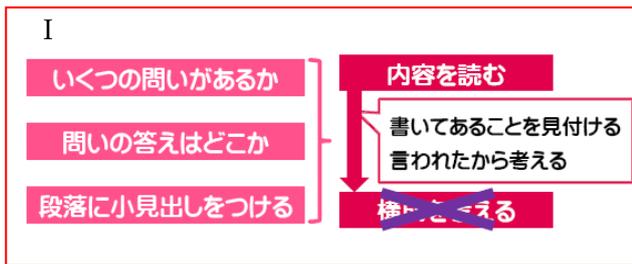
しいたげがおすすめです。

Aの文章は、自分の立場を述べるだけである。Bは、本論の根拠を受けて、より自分の伝えたいことが伝わるように変えている。また、「しかも」「だから」など、伝えたいことがより明確に伝わるように接続詞を生かしている。結論の文頭にある「これまでの理由から」「これらのことから」とは違った生かし方をしていることが分かる。

このように、形式的に文章を書くのではなく、自分の主張がより伝わるように結論と本論のつながりを考えたり、構成、表現を工夫しながら書いたりする経験を積ませることが大切であると考えられる。

4 おわりに

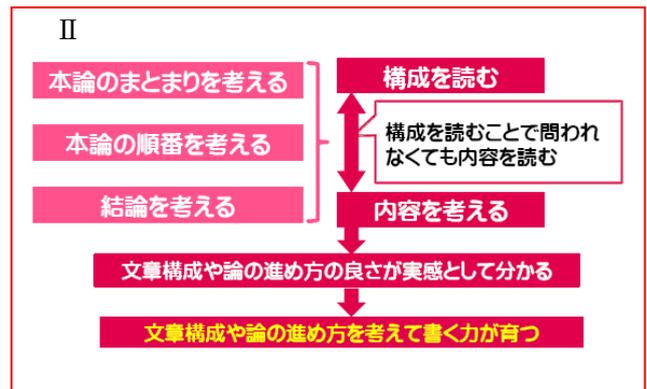
改めて、読むことの学習過程について振り返ってみたい。



Iのように、教師が指示を出し、内容を読ませると、書いてあることを見付けるだけであり、「教師に指示されたから考える学習」になってしまう。

当然、構成を考える必要性も感じず、自分が書く力となって発揮しない。

IIのような学習を組むことで、児童は構成を読み、問われなくても内容を読んでいった。内容の理解とともに、文章構成や論の進め方の良さを実感していった。文章構成の在り方を実感できるからこそ、自分が文章を書くときも、文章構成や論の進め方を考えて書こうとする意識が高まる姿につながったと考える。



今後も、読むことにおいても、本論同士のつながりや本論と結論のつながりなど、文章構成の在り方を実感できる学習指導の工夫を探り、読むことで実感できたことを書くことや話すことにも生かせるように取り組んでいきたい。